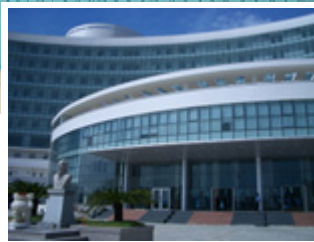


がんセンターたより

ベトナムダナン癌病院との 相互交流の覚書調印式

病院長 本村 茂樹

平成26年6月土屋理事長、赤池総長がベトナムの病院視察に行かれ、ダナン癌病院との相互交流を決めて来られました。私は7月に渡越し、24日黒岩県知事、チェンダナン市人民委員会委員長の立ち会いの下に、チャン病院長との間で相互交流の覚書に調印してきました。ダナン癌病院は500床の大きな病院ですが、まだ2年目で医師を含めスタッフが少なく、当センターでの研修がベトナム医療の発展に繋がることを期待しています。



第29回 日本がん看護学会学術集会

先人に学び がん看護の先を読む

会期 2015年2月28日(土)～3月1日(日)

会場 パシフィコ横浜

学術集会長 神奈川県立がんセンター
副院長兼看護局長 渡邊 眞理

一般社団法人日本がん看護学会は現在5000人以上の会員が活動しています。

今回の学術集会のテーマは「先人に学びがん看護の先を読む」としました。

近年がん医療の進歩はめざましく、治療に伴う看護にも変化が求められています。また日本は他の先進国に先駆けて超高齢社会を迎えます。がん患者数、死亡数の増加は同じ状況にあり、将来を見据えたがん医療や看護のあり方が問われています。

今回の学術集会のテーマはこのことについて、日本人が日常生活の中で培ってきた健康、病気、老いや死の文化やコミュニティのあり方、蓄積された統計的知見や研究のエビデンス、またがんと共に生活を営んできたがん体験者の知恵などから、将来のがん看護のあり方の手がかりを探りたいと思います。時を超えても変わらない看護の本質をふまえ、短期・長期的な視点で「がん看護の先を読む」学術集会にしたいと思います。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

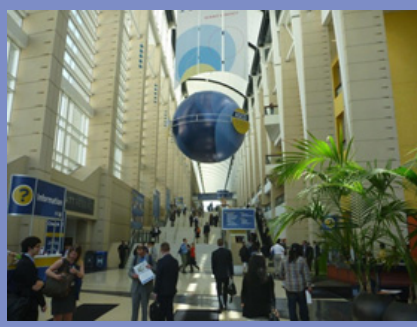
・・・がんワクチンセンターを開設しました・・・

本年度9月よりがんワクチンセンターを開設しました。がん患者が年々増加傾向にある中で、がん免疫療法は現在広く行われている外科療法、化学療法、放射線療法に続き患者への負担が少ない「第4の治療法」として注目・期待されています。しかしながら、まだ標準治療として確立されていないのが現状です。がん免疫療法がより有効であるのは、がんの発症予防や再発予防であると考えられますが、一方で期待や需要がより大きいのは進行がん患者であり、そのどちらに対しても科学的根拠に基づいたがん免疫療法の開発が必要です。がんワクチンセンターでは、臨床研究所とも連携して、がん免疫療法、とりわけがんワクチン療法について臨床研究を次々と実施して参りたいと考えていますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。(がんワクチンセンター 和田 聡)

詳細は当院公式ホームページをご参照下さい。

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/outpatient/vaccine.html>

ASCO Annual Meeting 2014 に参加して



乳腺内分泌外科

吉田 達也

5月30日から6月3日に開催されたASCO Annual Meetingに参加した。期間中は会場にいたはずなのに「遊んできたんだろう」とあらぬ疑いを掛けられるほどに日焼けするくらい天候に恵まれた5日間であった。

ASCO Annual Meetingは今年で50回とのことで、各領域で過去50年の治療の変遷に関する講演が行われていた。普段教科書でしか見ないような歴史的データの「発表時の姿」に触れられるという、世界のoncologyを

リードするASCOならではの企画であった。

もう一つASCOならではの感じたのはbig dataが発表された時の臨場感とその結果の影響力である。これまで乳癌術前化学療法の臨床試験ではpCR（組織学的完全奏効）をsurrogate endpointとすることが多かったが、今年のplenary sessionで発表されたALTT0試験ではそのpCRの改善が生存の改善に繋がらないことが示された。生存曲線のスライドが出た時の会場のざわつき、それは決して論文では伝わらないもので世界中のoncologistの反応を体で感じた瞬間であった。またそれが単にnegative studyで片づけられてしまうのではなく、今後の術前化学療法の試験デザインに一石を投じてしまうであろうことにASCO dataの影響力を感じた。

非常に貴重な体験ができた5日間であった。このような機会を与えてくださった病院と、外来病棟の代診をしてくれたスタッフに感謝します。



消化器外科

樋口 晃生

2014年5月30日から6月3日にアメリカ・シカゴのマコーミックプレイスでASCO Annual Meeting 2014が開催されました。ASCOは周知の通り、がん関連学会で最も権威ある学会であり、是非参加して実際に雰囲気などを体験してみたいと以前から思っていました。今回参加させていただけてとても感謝しております。

宿泊しているホテルの近くに学会専用バスの乗降場があり、街中の混雑を避け裏道を通って学会場に到着。学会場は日本で考えられない規模の大きさでした。メインホールは5000人位収容できる規模で、そのようなホールが何個もあり、その中をあらゆる国の人々がせわしなく行き来しておりました。世界で最も権威ある国際学会に来たんだなあという実感が湧いてきました。

今年の大腸癌領域のtopicはKRAS野生型の切除不能進行・再発大腸癌に対するFOLFIRI/mFOLFOX6+Bevacizumab vs. FOLFIRI/mFOLFOX6+Cetuximabの第III相試験(CALGB/SWOG80405)の結果についてでした。メインホールは満席で立ち見の聴衆もあり、世界的な関心の高さが伺われました。結果は一次治療におけ

るCetuximabの優位性は証明されませんでした。明らかになっていない点も多く、今後バイオマーカー検査を含めた副次的な解析を進めて原因が明らかになっていくものと思われました。

シカゴは摩天楼発祥の地であり、街そのものが建築の博物館と言われているそうです。個性的な高層建築物が立ち並んでいながらも街全体として調和が保たれておりとてもきれいな街並みでした。ただ、ミシガン湖に通じる川に豪華なヨットが何艘も停泊しているかと思えば一等地のホテルの前にも物乞いがいてアメリカの貧富の差の激しさも垣間見えました。今回色々な事を経験させていただける貴重な機会をいただきましたことを感謝申し上げます。今回の経験を今後の日常臨床等に反映させていきたいと考えております。

新任医師の紹介

職員の異動がありましたのでご紹介します。宜しく申し上げます。



婦人科
医師
中西 一歩



精神腫瘍科
医長
北川 理映子

新しいがんセンター

部門紹介（第3回）

神奈川県立がんセンター部門紹介第3回目は検査科（腫瘍分子生物、輸血、細菌、SRL委託検査室、外来採血室、内視鏡室）、医療安全推進室、医療の質評価推進室、感染制御室、医療技術科（CE）、治験管理室の6部門をご紹介します。

検査科

* 腫瘍分子生物検査室 *

腫瘍分子生物検査室はがん細胞の遺伝子解析や培養によって、抗癌剤の効果予測、治療効果のモニタリング、病理診断の補助的診断を行っています。旧病院では検査環境の保持に苦労しましたが、新病院では環境が整い、分散していた機材が集約され以前より質の高い検査が可能となりました。検査の性質上様々な温度で管理された試薬や検体が多いので、移転の際は旧棟と新棟間で連絡を取りながら迅速な搬送と収納が要求されました。

* 輸血検査室 *

新病院への移転に際しては緊急輸血に備えて、新・旧検査室双方で最低限の検査が行えるような体制を作った移転となりました。11月2日は患者移送と同時進行での引っ越しとなりましたが、皆様のご協力により幸いにも大きなトラブルもなく輸血機能を移転することができました。また同時進行で電子カルテGX、新検査部門システムへの移行も行われましたが、輸血画面の修正や見直しを行い以前よりも増して安全性が向上したと思います。

* 細菌検査室 *

細菌検査室では、新棟移転により作業場所やシステム運用が明確かつ合理化することができ、安全で正確な検査を行う環境が整いました。技師2名により細菌同定検査、薬剤感受性検査、骨髄移植患者さんのヘルペスウィルス定量などを行っています。また院内感染対策チームとして菌検出情報の提供やラウンド等に参加し、結核菌や薬剤耐性菌などに対し、常に目を光らせています。

* SRL委託検査室 *

委託検査室として早く正確に検査結果をお返しすることを心掛けてまいりましたが、旧がんセンターでは、検体検査室、採血室、尿検査室が1階

と2階の別々に配置されていた為、報告時間の短縮には限界がありました。新がんセンターでは、検体検査室、採血室、尿検査室を隣接したレイアウトにしたことにより、リアルタイムで検査が可能となり、報告時間の短縮が図れるようになりました。

受託が決定後直ちに社内で専門チームを構成し、インフラの整備、検査システムの構築、新規購入測定機器の実験検討など、それぞれの分野で協議を重ねて準備してまいりました。また、運用に関しては、がんセンター担当部署とも何度も協議を行い、お互いにより良い患者サービスができるように工夫いたしました。その1つとして、採血室のシステム化があります。採血管作製の自動化と受付手続きを簡略化することにより、患者さんの待ち時間短縮が可能となりました。現在は、14名で早朝検体や日当直対応を実施しております。旧がんセンターの時とは比較にならないくらいの高スペックの測定機器を2台ずつ導入し、1台が故障しても検査不能とならない体制としております。

* 外来採血室 *

新棟での外来採血室は看護局と共同運営を行っております。臨床検査技師の採血スタッフを増員し、採血ブースを6から8に増やすことで患者さんの待ち時間を短縮することができました。また待合スペースを拡充することで以前のような廊下で待つようなことが無くなり好評を得ております。外来採血室は検体検査部門に隣接して配置しており、検体搬送がスムーズに行えるようになったことで時間短縮にもつながっております。

* 内視鏡室 *

内視鏡室は1階の西側出入口横に位置し、医師、看護師、検査技師、看護補助、MA、ステリ等、多職種のスタッフが業務に携わっています。そのためチームワークを大切にしながら業務を行っています。新棟移転の際は、購入物品の選択と、膨大な機器や物品の移転、限られたスペースの中での配置や設備調整に大変苦労しました。チームで努力した結果、効率よく業務が行なえるようになり、患者さんにとって安全で優しい内視鏡室になりました。



医療安全推進室

こんにちは。昨年の病院の移転時の入院患者さんは活動の制限がある方、ADLの低下がある方、重症の方が多かったのですが、多くの部署の方が協力して無事、引っ越しを終えることが出来ました。あらためて医療安全推進室からも感謝申し上げます。移転後は新しい施設・診療体制に対する不慣れや、急激に患者さんが増えたことなど職員にとって多くの苦労がありました。新しい病院をみんなで盛り上げようという気概で乗り切れたと思います。

医療の質評価推進室

医療の質評価推進室って何をやっているの？と思われる方が多いかもしれません。ここでは、二つの研究会が医療の質を測定・評価し、医療の質の向上を図るべく活動しています。一つは主として5大がんを対象にDPCデータを用いて全国各施設の診療を比較するCancer Quality Initiative (CQI)研究会です。もう一つは、当院独自の研究会であるQuality Indicator (QI)研究会で、質の高い医療を提供しているか、安全で安心な医療を提供しているか、など5つの視点から医療の質を評価しています。平成26年8月には当院主催で全国CQI研究会が開かれました。

感染制御室 (ICT)

今年度から感染制御室が設けられ、院内感染対策チーム (ICT) は、大川副院長、齋藤室長 (感染制御医師 ICD)、村上副室長 (ICD)、黒木副室長 (感染管理認定看護師 ICN)、斉木薬剤師、佐々木検査技師をはじめとした4職種を中心に総勢23名のメンバーで活動を行っています。毎週のICT巡回と抗菌薬ラウンドを行い、院内の感染対策を日々監視しております。移転直前には、各手洗い場所に液体石鹸が設置されていないことが発覚し、開院に間に合わせて急きょ設置をしました (前任の福田 ICN が尽力しました)。また、移転直後には、給食部門でノロウィルスの保菌者が増加し、更衣室の改築等の感染対策を強化しました。今後も、感染対策活動に尽力していきますので、皆様のご協力をお願いいたします。

医療技術科 CE (臨床工学)

医療技術科は臨床工学技士が3名となっていますが、実際は看護師兼務が1名であり、実状は2名で稼働しています。その仕事は、医療機器の点検・管理や内視鏡下手術装置、特殊体外循環、人工呼吸器管理など医療機器全般の管理であり、その他幹細胞採取などの臨床業務なども行っています。新がんセンターでは様々な医療機器の整備を始め、CEIA (医療機器管理システム) を導入し、院内医療機器の一元管理も行うようになりました。また最新の医療機器を導入しており、患者さんが安心して治療が受けられるよう医療機器の整備を行い、医療安全の最前線に立っています。

治験管理室

治験は、新しく開発された薬が有効かつ安全であるかを、一定のルールのもと間違いなく調べることで、治験管理室はその進行を管理しています。

治験薬を旧病院から移転する際は、温度管理など細心の注意を払う必要があったため、製薬企業や引越業者の方の多大なご協力を頂き、無事に移動することができました。

新病院では外来診察のエリアに入り、患者さんに判りやすい場所でより身近に接することができるようになりました。

医科歯科連携協約調印式



平成26年7月3日、神奈川県歯科医師会と神奈川県立がんセンターが連携の協約を結びました。



平成25年度 患者満足度調査の結果をご報告いたします。

平成26年1月から2月にかけて、患者さんへの満足度調査を実施いたしました。

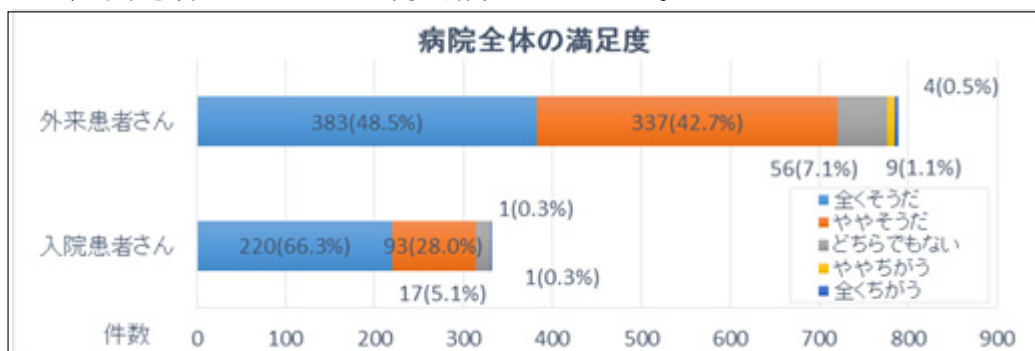
入院患者さんには、1月27日(月)～2月21日(金)の4週間で、384名の方にアンケート調査票を配布し、356名の方から回答をいただきました。

外来患者さんには、2月3日(月)、6日(木)の2日間で、965名の方にアンケート調査票を配布し、928名の方から回答をいただきました。

新病院への移転に伴い、病院全体の評価が向上しました。特に外来の評価が向上しました。アンケート調査にご協力をいただいた患者さん、ご家族の皆様にお礼申し上げます。

1 病院全体の満足度

「全体的としてこの病院に満足している」の設問に、「全くそうだ」、「ややそうだ」と回答した割合は、入院患者さんが94.3%、外来患者さんが91.3%と高い結果となりました。



回答数は、アンケート調査票を配布し、有効な回答として回収した数。

2 病院全体印象の評価(5段階評価)

	入院		外来	
	H24	H25	H24	H25
病院に満足している	4.45	4.60	4.12	4.38
病院を信頼している	4.66	4.63	4.32	4.46
入院(通院)期間に納得している	4.53	4.49	4.03	4.16
家族、知人に勧める	4.53	4.50	4.11	4.27
努力し向上している	4.57	4.55	4.13	4.31

3 医療サービスとして重要な10の項目(5段階評価)

	入院		外来	
	H24	H25	H24	H25
① コミュニケーション	4.62	4.57	4.18	4.25
② 職員能力	4.63	4.59	4.24	4.29
③ ていねいさ	4.68	4.62	4.22	4.28
④ 反応のよさ	4.57	4.56	4.11	4.18
⑤ 患者さんの理解	4.55	4.50	4.04	4.11
⑥ 手続等容易性	4.58	4.45	3.46	3.63
⑦ プライバシー保護	4.28	4.49	3.78	4.13
⑧ 均一のサービス	4.26	4.37	3.72	3.93
⑨ 安全性	4.51	4.57	3.95	4.17
⑩ 設備/アメニティ	4.01	4.51	3.47	4.30

コミュニケーション…医師や職員は、聞き取りやすく、分かりやすい言葉で説明しましたか。

職員能力…医師や職員は、必要な技術と知識を身につけていますか。

ていねいさ…医師や職員は、礼儀正しく、親切で、ていねいでしたか。

反応のよさ…医師や職員は、患者さんの希望をできる限り取り入れようと思いましたか。

患者さんの理解…医師や職員は、患者さんの気持ちを理解しようと思いましたか。

手続等容易性…入院前や入院中の様々な手続きはうまくいきましたか。

プライバシー保護…入院中のプライバシー保護は充分でしたか。

均一のサービス…院内のどこでも、どんな時でも同じようなサービスを受けることができましたか。

安全性…入院(通院)中は安全に医療サービスが行われていると感じましたか。

設備/アメニティ…入院中の設備や環境は快適でしたか。



神奈川県立がんセンター イベントの報告



看護の日

5月12日はナイチンゲールの誕生日。それを記念して今年も5月9日～15日に、看護の日・看護記念行事を開催しました。今年は新棟に移転して初めての「看護の日」。広々としたホスピタル・ストリート(廊下)を利用したの三行詩、共同アート、ポスターセッションは、患者・家族の方々にもゆったりとご覧になっていただきました。



その横のアート・ストリート(外来前)では看護師によるアロママッサージや病院食紹介、臨床研究所の紹介で賑わっていました。ラウンジで行われた講演会「がんと告知されて」とボランティアさんによるコンサートには延べ200名のお客様を迎え、大盛況に終わりました。

たくさんの患者・家族の方々の笑顔に触れ、私たち看護師も癒された一週間でした。(看護局看護教育科 田中久美子)

ブラックジャックセミナー

5回目のキッズセミナー、ブラックジャックセミナーと名前を変えて3回目、新病院になってから初めての会が今夏も最も暑くなりそうな8月31日に開催されました。今年は残暑も厳しくなく、新しい病院の空調も相まって涼しい快適な環境でした。午前中に子供を連れたなじみのスタッフが、業務の時とはちょっと違う親の顔をして、お仕事の体験をさせていました。ほほえましいですね。

午後からが本番です。県内の小中学生を中心に60人の子供達が集まりました。今年は応募が大変多く、全員を受け入れてあげたかったのですが、やむなく多くの子供たちに残念な思いをさせていただきました。今年もみんなやる気満々です。赤池信総長、中山治彦副院長の話に続き、手術衣での記念撮影を撮ったあとセミナーを開始します。本物の針糸を使った縫合実技、内視鏡手術シミュレーター、自動縫合器試し打ち、手術ナースのお仕事体験と器械出し練習、超音波メスでの鶏肉切除術、放射線治療の金型作成を体験しました。最初は緊張してこわばっていたキッズたちですが、すぐに笑顔と驚きの声に変わりました。やはり子供たちは素直です。食い入るように見つめる目と、真剣な顔つきがとても印象的でした。うまくできた時の満面の笑み。そんなわが子を真剣に見つめる親御さんたちもまた印象的でした。そんな親御さんたちも実物の手術器械や技術に興味津々で、時にわが子を押しつけて質問する風景も見られました。

新病院での初めての、真新しい講堂でのセミナーの思い出をいつか同僚となったキッズたちと将来語れる日が来ることでしょう。(呼吸器外科 伊藤宏之)



君もレントゲン博士

「遠大な計画？」

一般の方に、画像診断・IVRについて楽しみながら理解していただくための試みとして、中学生を対象にした体験的な勉強会「君もレントゲン博士」を開催しました。募集12人に対して30人以上の申し込みがあり、お断りするのにも残念なので、全員受け入れることにしました。そして24人の中学生と付添の父母17人が7月27日の日曜に5階の講堂に集合しました。

簡単なレクチャーのあと、6人ずつの4班に分かれて、X線診断と放射線防護、CT、MRI、IVR、3D画像処理の5つのコースを1時間ずつ順に巡りました。スイカや鰯などの身近な物をX線透視で観察、箱に入れた積み木の形を2方向の画像から推理するクイズ、箱の中のショートケーキのCT画像、MRIの強磁場の中での一円玉の動き、IVCフィルターの留置・回収、超音波ガイドの血管穿刺、ワークステーションで3DCT画像を加工してお腹の中の様子を観察することなど、盛りだくさんな内容でした。

アンケートでは非常に好評で、楽しく勉強できたという声が寄せられました。この中学生達の中から医療に携わる子が出てくれると嬉しいな、と思いながら終わった一日でした。(放射線診断・IVR科 吉田哲雄)



一日看護体験

7月25日(金)に高校生や社会人の方を対象に新病院で初めての一日看護体験を実施しました。今年度は13名の方に参加していただきました。多数のご応募がありましたが、参加条件もあり全ての方に参加いただけなかったことが、残念でした。

参加者の感想は、「ユニフォームを着て病棟見学をしたことで看護師になりたいと強く思いました。がんセンターの雰囲気も良く、こんな病院に勤めたい」、「患者さんから“頑張ってるね”と褒められたので、看護師になるための努力をしたい」という嬉しい声がありました。参加者と患者さんとの関わりで笑顔が見られ、職員全員がその姿に心が温まる思いでした。

人と関わることで大切な何かを得られれば幸いです。

また来年、一日看護体験に参加希望される皆様を心よりお待ちしております。(看護局看護教育科 岡田拓也)

写真の掲載は参加者の同意を得ています。



神奈川サイエンスサマー行事・科学教室「染色体に触れてみよう」

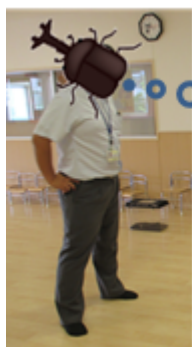
昨今の青少年の「理科離れ」に対する取り組みとして、神奈川県では毎年夏に県の試験研究機関、県内の博物館、科学館、大学、企業の研究機関で科学講座や体験教室などを通して若い世代に科学に親しんでもらう企画「神奈川サイエンスサマー」を実施しています。がんセンター臨床研究所でも8月22日に中・高校生を対象とした科学教室「染色体に触れてみよう」が開催されました。人間はおよそ60兆個の細胞からできています。染色体は細胞一個一個の中であって、遺伝子の本体であるDNAを保持してDNAの遺伝情報を読み出している装置で、染色体の異常はがんの原因ともなります。

今回の参加者(抽選)は中学生22人でした。過去(メンデル)から現在(iPS細胞)に至る遺伝子・DNA・染色体研究のトピックスを紹介する講義とともに、参加者には顕微鏡による細胞や染色体の観察や題目の通り細胞からDNAを取り出す実験をしてもらい、染色体にかかわる科学を体感してもらいました。その後のアンケートの結果では、多少難しい点はあったものの全般に興味をもって楽しんでいただけたようで、将来の医学を発展させる研究者を育てる一助となればと私たちとしても実感した次第です。(臨床研究所主任研究員 菊地慶司)



あゆみ園で 一緒に夏を過ごした「おともだち」を紹介します!

がんセンターの職員から、プレゼントされたカブト虫は、すっかり子どもたちとおともだちになれたようです。一緒に夏を過ごした思い出は子どもたちの心の中に残ることでしょう。プレゼントをした職員は、子どもたちから「カブト虫博士」と呼ばれ、沢山の質問を受けていましたね。がんセンターたよりを読んでいただいている皆様、是非「カブト虫博士」を院内で探してみたいはいかがでしょうか?



私が、「カブト虫博士」だ！
皆さんには分かるかな？



ボランティア会ランパスによる患者さんのための 11月・12月木曜ミニコンサート予定表

時間：午後 1:30 ~ 2:00 (約 30 分間)

- 11月6日 ミューズアンサンブル
- 11月13日 ピアノ 鮫島明子
- 11月20日 ピアノ 神谷ゆりえ
- 11月27日 アンサンブル マリエリカ
- 12月4日 ミュージックベル カリヨン
- 12月11日 **クリスマス会 (開演時間：14時～)**
アンサンブル テターの会
声楽 三縄みどり
- 12月18日 ピアノ・声楽 中野亜維里
青山瑠美子
- 12月25日 お休み



*** 平成 26 年度 6 月・7 月・8 月・9 月 ***

1 日平均患者数 (単位：人)

区分	6月	7月	8月	9月
入院	365.2	330.2	344.8	351.8
外来	830.2	814.6	789.4	894.3

編集後記

新病院がオープンして、そろそろ1年になります。「期待以上!」、「予想通り」、「こんなはずでは・・・」等々、みなさんの感想はいかがでしょう?そして、開院当時の広々とした美しい空間は、今も保たれているのでしょうか?

さて、本号トップページには、当センターの歴史に残るニュースを掲載しました。ベトナムのがん病院との医療技術交流、日本がん看護学会学術集会の主催、さらに、がんワクチンセンターの開設。これらは、いずれもがんセンターを担ってきた人達の尽力によって基盤作りがなされ、がんセンターの新たな未来への第一歩となるものです。さらに、大きく展開していくために、今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。(企画情報部長 金森平和)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241 8515 横浜市旭区中尾2-3-2

TEL 045-520-2222 (内線 2510)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

